

会議の名称	令和7年度第2回さいたま市動物愛護推進協議会
会議の開催日時	令和8年1月27日(火) 14時～16時
会議の開催場所	浦和コミュニティセンター 第9集会室
出席者名及び欠席者名 ※敬称略	【出席委員6名】(五十音順) 赤澤 暁昌／清水 啓恵／西村 亮平／望月 素子／湯井 円三郎／和知 教之 【さいたま市動物愛護ふれあいセンター3名】 所長補佐 澤田 淳／主査 永田 瑞穂／獣医師 遠田 彩加 【事務局(生活衛生課)3名】 課長 川越匡洋 課長補佐 岩永 貴浩／主任 山崎 舞
議題及び公開又は非公開の別	議事1 会長、副会長の互選について 議事2 ペット防災について 議事3 動物愛護フェスティバル2025開催後の報告 議事4 その他
傍聴者の数	1名
会議の内容	下記のとおり。

記

生活衛生課長 開会あいさつ	
議事1 会長、副会長の互選について	
互選により、西村委員が会長に、望月委員が副会長に就任した。	
議事2 ペット防災について	
西村会長	議事2 ペット防災について、議事をご提案いただいた望月委員よりご説明をお願いします。
望月委員	私はさいたま市に住んでおり、地域で開催される防災訓練に積極的に参加しています。私の住む地域では、動物を飼っている方が多くいらっしゃいますが、防災訓練では動物の避難に関する話題がまったく出てきません。私の住む地域だけなのか、さいたま市のほかの地域や、さいたま市外での地域でも同様なのか、疑問に感じています。 また、実際に被災した際、さいたま市では動物を飼っているすべての方が、小中学校などの避難所に動物を連れて避難するのは、人数的に難しく、在宅避難になる可能性が高いと考えています。そうなった際に、人と動物にとって何が大切なのか、また在宅避難ができない場合に、ケージトレーニングやマイクロチップの装着など、どのような備えが必要なのか、飼い主の皆さんが本当に理解をされているのか疑問に感じています。そこで、さいたま市以外の地域での取り組みも含めて、お知恵をいただければと思い、議事として提案しました。

清水委員	<p>私の住む市ではまだ一度しか実施していませんが、避難所運営訓練の中で、実際にペットを連れた同行避難訓練を行いました。自治会や獣医師などが参加して、ペットを連れて来たらどのような流れで、避難所へ移動するかを想定して訓練を行ったのですが、犬のケージトレーニングをされていない方が多く見受けられました。ケージを持っていない方や、抱っこして避難をすればよいと考えている方もいらっしゃいました。</p> <p>そこで、ケージトレーニングの方法を実際にレクチャーしましたが、ケージに入れて飼い主さんが離れると、不安になって騒いでしまう犬もいました。このような体験をして、知ってもらうことが必要だと思いますので、今後も実施したいと考えています。</p> <p>さいたま市でもこのような訓練を実際に行い、まずはどのようなものか知ってもらうことから始めるのがよいのではないのでしょうか。</p>
望月委員	その訓練は清水委員の団体が主催されたのですか。
清水委員	<p>市町村主催の訓練です。小学校で実施し、人は体育館に避難スペース、動物は校庭のサッカーゴールを避難スペースとして訓練を行いました。</p> <p>動物を飼っていない方にも同行避難について知ってもらう機会になったと思います。</p>
望月委員	<p>動物を飼っていない人に同行避難について知ってもらうことは、非常に大事だと思います。動物を飼っていない方や苦手な方にも、同行避難が可能であることを事前に知っていただければ、実際の災害時に、トラブルが起きることも少なくなるのではないかと思います。</p> <p>飼っている人は知っていても、飼っていない人は知らないことが多いため、皆さんに広げていきたいと考えていますが、そのためには行政の力が必要だと感じています</p>
西村会長	さいたま市では動物に関する防災訓練は行われているのでしょうか。
事務局（生活衛生課）	市主催の防災訓練は防災部局によって実施されていますが、先ほど清水委員からお話いただいた、実際に動物を連れた同行避難については、まだ実施されていないと承知しています。
動物愛護ふれあいセンター	<p>昨年、当センターが見沼区の小学校で行われた避難所運営訓練の中で、ペット防災について講演を行いました。また、南区で行われた避難所運営訓練でも、当センターの職員が、ペット防災について講演を行っています。</p> <p>また昨年は、出張講演としてマンションに招かれ、そのマンション内の飼い主会に対してもペット防災の講演を行いました。</p>
望月委員	昨年、美園地区で行われた防災フェスはさいたま市主催ではないのですか。
動物愛護ふれあいセンター	そちらは民間団体が主催している防災フェスで、さいたま市は共催という形で、当センターも参加しました。
望月委員	私はこの防災フェスをたまたまインターネットで知ったのですが、一般市民の方がこうした情報を知る機会はあるのでしょうか。

	私たちのように動物愛護に携わる人たちは、情報が入りやすいのですが、一般の飼い主さんは知る機会が本当に少ないと思います。
清水委員	さいたま市の広報紙には掲載しないのですか。
動物愛護ふれあいセンター	去年 5 月に開催された防災フェスについては、さいたま市の参加が決定したのが開催直前だったため、市報への掲載が間に合いませんでした。そのため、ホームページで広報しました。
清水委員	一般の方が行政のホームページを見る機会はあまり多くありませんので、周知の方法を検討したほうがよろしいと思います。
事務局（生活衛生課）	動物を飼っている世帯は推計で 1 割～2 割といわれており、その方々に必要な情報を届けることは、行政としても課題と認識しています。引き続き、広報部門と協議しながら検討していきたいと考えています。
赤澤委員	私は以前、ある自治体で動物愛護フェスティバルの実行委員会を務めていました。その際、災害への関心や情報量には人によって大きな差があるため、どのように情報を届けるべきか議論をした経験があります。動物愛護フェスティバルでは、小学校などにポスターを掲示して広報をしますから、そこにサブタイトルを入れて、メッセージ性を持たせていました。ここ数年は災害に関する内容をサブテーマとし、フェスティバルとの波及効果を狙っていました。動物を飼っている方も飼っていない方も訪れる場で、動物にとっても防災や日頃の備えが大切であることが自然と目に入り、行動するきっかけになればという思いで、毎回サブタイトルを入れていました。また、その自治体では人の流れが多い駅前や大きな公園でフェスティバルを開催しており、動物を飼っていない人も立ち寄りやすい環境でしたので、そういった方々にも動物の同行避難について知っていただければという思いで取り組んでいました。こうしたように、メッセージ性を一つ加えるだけでも、きっかけになるのではないかと思います。
西村会長	情報発信については、動物行政に限らず、いかに市民へ伝えるかという非常に難しい問題が絡んでくると思います。その点、動物愛護フェスティバルと組み合わせる波及効果を狙うというのはとても良いアイデアだと感じました。そのあたりについていかがでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	赤澤委員のお話は非常に参考になりました。メッセージを加えることで、自然と多くの方の目に触れる機会が増え、少しでも頭に文言やキーワードが残れば、一歩前進につながると思います。今後の参考にし、活用したいと考えます。
西村会長	赤澤委員のお話で、もう一つ参考になったのが動物愛護フェスティバルの開催場所です。動物を飼っていない方をターゲットにして知ってもらうことは非常に重要だと思います。人員や予算といった課題もあり難しい面はあると思いますが、多くの方が来場しやすい場所での開催についても、検討していただければと思います。

	ほかに意見はありますか。
望月委員	自治会の避難所運営訓練では、ペットの避難に関するお話をさせていただくことは難しいのでしょうか。ペットを飼っている世帯の割合は1割程度ということで、全員が該当するわけではないので、限定的になってしまいますが。
湯井委員	<p>避難所運営訓練は、自治会で毎年1回実施しています。私の地域では、これまでの訓練ではペットの避難について話題に上がることはほとんどありませんでした。</p> <p>しかし先日、動物愛護ふれあいセンターの職員が来られた際に、犬猫の避難場所の問題についても取り上げなければならない、という話が初めて出てきました。</p> <p>避難所運営訓練を長年行ってきましたが、ここ最近になってようやくそうした流れが出てきたのだと感じています</p> <p>これからは、犬や猫を飼っている人たちにも参加してもらい、飼っていない人とも意見交換をしながら、どのように共に避難していくのか話し合う必要があると考えています。</p> <p>ペットを連れて避難せざるを得ない状況は当然あり得るため、少しでも前進するように、動き出したところです。</p> <p>望月委員のおっしゃるとおり、ほかの地域ではまだそこまで、ペットの避難の取り組みが進んでいないと感じます。ですから、まず地域で話をささなくてはいけないと気づきました。</p> <p>まだその後の進展はありませんが、切り口として出てきたこと自体が大事なことだと思いますので、私も今後、広げていきたいと考えています。</p>
西村会長	<p>ペット専用の訓練を実施することは難しいと思いますが、災害時の避難訓練の一部にペット同行避難の要素を少しでも取り入れていただくようお願いする方法は有効だと思います。</p> <p>話の持っていく方として、「犬や猫が来るとトラブルになるから困る」という方向にしてしまうと、「では受け入れはできない」という結論につながりかねません。しかし、現実としてさいたま市ではすべての避難所でペットの受け入れが決まっているため、実際に犬や猫が避難してくることは避けられません。その際に、どうすれば最もスムーズに運営できるかという視点で、みんなで考えていく方向に話を進めていくほうが良い方向に向かうと思います。湯井委員のお話を聞きますと、自治会さんとの連携はすごく大切なことだと思います。</p>
西村会長	ほかに意見はありますか。
清水委員	以前ですが、対人向けの防災セミナーが開催された際に、そのセミナーの後に続けて、私から「ペット防災」についてお話しする機会をいただきました。

	<p>防災セミナーを聞いていた参加者の方が、そのまま残ってペット防災の話も聞いてくださいましたので、人の防災とペット防災を抱き合わせて実施する方法は、とても効果的ではないかと思います。</p>
西村会長	<p>防災の中の一部としてペット防災もあるのだということを、組み込んでいければ良いと思います。</p>
<p>議事 3 動物愛護フェスティバル 2025 開催後の報告</p>	
西村会長	<p>続きまして、議事 3 動物愛護フェスティバル 2025 開催後の報告について、動物愛護ふれあいセンターよりご説明をお願いします。</p>
動物愛護ふれあいセンター	<p>皆さまにお配りしている「動物愛護フェスティバル 2025」のカラー資料は、当日の開催内容をまとめた案内資料になります。続いてお渡ししている 2 枚目が、実際の開催結果をまとめたものです。</p> <p>アンケートの回収結果では、818 名の方から回答をいただきました。ただし、アンケートに回答しないまま帰られた方も相当数いらっしゃいましたので、実際の来場者は 1000 人を超えていたのではないかと思います。当日はやや風が強かったものの天候には恵まれ、トラブルもなく実施することができました。</p> <p>来場者の年齢層を見ると、10 歳未満が 332 名（約 40%）と最も多く、30 代が 157 名（19%）、40 代が 194 名（23%）という結果でした。子ども連れのご家族が多かったことが分かります。</p> <p>来場者のお住まいについては、開催地である桜区が最も多く、次いで浦和区・南区・中央区が多い結果でした。やはりアクセスしやすい地域から多く来場されていたようです。</p> <p>「何で開催を知りましたか」という質問では、市報や SNS、チラシを見て来場した方が多いという結果でした。</p> <p>「楽しかったイベントは？」という質問では、昨年度に続き、シモゾノ学園さんが実施した犬とふれあえるコーナーが最も人気だったという結果でした。</p> <p>続いて、犬や猫の飼育状況については、動物を飼っていると答えた方は 88 名で、そのうち犬が 66 名、猫が 34 名という内訳でした。</p> <p>犬の登録については 170 名が「知っている」と回答しましたが、鑑札や注射済票を犬に装着しなければならないことを「知らない」と答えた方が 73 名（約 30%）いました。</p> <p>また、狂犬病の予防接種については 179 名（約 70%）が「知っている」と回答した一方で、33 名（約 13%）が「知らなかった」と答えました。このため、鑑札・注射済票の装着と併せて、引き続き啓発が必要だと感じています。</p> <p>猫については、メス猫は交尾をするとほぼ 100%妊娠するという事実について、「知らなかった」と回答した方が 139 名（約半数）いました。</p>

	<p>また、全国の保健所などで年間約 7000 頭の猫が殺処分されており、その約 6 割が子猫であることについて、「知っている」と答えた方が 39 名、「知らない」と答えた方が 159 名と、多くの方が実態を把握していない状況がわかりました。</p> <p>猫の生態や全国での殺処分の現状について、知らない方が相当数いらっしゃるというのが現状でした。</p> <p>アンケート結果の報告は以上です。</p>
西村会長	<p>フェスティバルを、もう少しアクセスしやすい場所で開催するのはさいたま市としては、難しいのでしょうか。</p>
動物愛護ふれあいセンター	<p>検討の余地はありますが、まず動物を入れられる施設という条件があり、これが実際のところ大きなハードルとなっています。また、当センターが飼育している動物の状況や、施設自体を見ていただきたいという思いもあります。さいたま市ではこうした施設で市内の動物を保護しています、ということを知っていただきたいというところもあり、当センターで開催をしています。</p> <p>また、街中での開催の場合、天気によって左右されてしまうので、雨天時は完全に中止になってしまう点も課題です。</p>
西村会長	<p>これに関しまして何か質問やご意見はありますか。 よろしいでしょうか。開催時期や場所については変更が難しいとのことですが、あとはペット防災の内容を動物愛護フェスティバルに組み入れていただくことを検討していただければと思います。</p>
望月委員	<p>私はさいたま市の動物愛護推進員でもあり、毎年、動物愛護フェスティバルのお手伝いをしています。</p> <p>もし、ペット防災について動物愛護フェスティバルで何か実施されるのであれば、推進員にもお声がけいただければ、ご協力できることもあると思います。</p>
清水委員	<p>埼玉県適正飼養管理士会にも、ペット防災についてお話しできる方はたくさんいると思いますので、次年度の動物愛護フェスティバルでは、ペット防災の相談会を開催してみたいはいかがでしょうか。</p>
動物愛護ふれあいセンター	<p>埼玉県適正飼養管理士会にご相談をして検討したいと思います。</p>
西村会長	<p>話は変わりますが、犬との触れ合いコーナーについては、苦情はないのでしょうか。</p>
事務局（生活衛生課）	<p>犬との触れ合いコーナーは毎年実施していますが、これまで一度も苦情をいただいたことはありません。大宮国際動物専門学校のカニトリナー科の学生さんが中心となり、行き届いた管理を行っているため、安全に触れ合いができます。また、犬に疲れが見えた場合はすぐに休憩室へ戻し、無理をさせないようにしています。</p>
西村会長	<p>子どもが実際に動物に触れるというのは、とても大事なことですよね。</p>

和知委員	<p>今は小学校で動物を飼わないところが増えていています。私たちが小学生だったころはウサギやニワトリを学校で飼育していましたが、現在は半数以上の学校が動物を飼っていないと思われます。私の学校の学生に、小学校で動物を飼育していたかを聞くと、手を挙げるのは半数にも満たない状況です。</p> <p>私どもの学校でも11月に「どうぶつ祭り」という文化祭を開催していますが、来場される方のほとんどが小学生です。いろいろな動物に触れることができるため、皆さんに大変喜ばれています。</p>
赤澤委員	<p>ペット防災の企画についてひとつ提案があります。以前、実際にペットの防災セットを用意して、「こんなに重いんだ」と体感してもらったり、飼っている犬と一緒に瓦礫を想定した場所を、防災セットを担ぎながら歩いてもらう企画を実施したところ、皆さんに喜んでもらったことを思い出しました。子どもはゲーム感覚で楽しみながら、大人と一緒に体験して学んでいくという形ですね。</p>
動物愛護ふれあいセンター	<p>ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p> <p>現状の開催状況では、飼っている犬を連れての来場は、今のところ控えていただいている状況です。というのも、普段とは違う環境で犬が興奮してしまい、噛んでしまうケースが実際にあるためです。</p> <p>こういった点も踏まえ、今後どのような方法で進めていくかについては、もう少し検討させていただきたいと考えています。</p>
西村会長	<p>ご意見、ご質問は以上でよろしいでしょうか。それでは次の議事に入ります。</p>
議事4 その他	
西村会長	<p>議事4 その他としまして、清水委員より、動物愛護ふれあいセンターの猫の持ち込み数の増減について、議事の提案をいただいております。清水委員よりご説明をお願いします。</p>
清水委員	<p>前回の協議会で、動物愛護ふれあいセンターでは猫の譲渡希望者が減っているという話があったと思います。その後の状況について確認したくて質問しました。具体的には、飼い主さんからの持ち込みが増えて、管理がいつぱいになった時期があったのかどうか、そういった状況があれば教えていただきたいと思います。</p>
動物愛護ふれあいセンター	<p>去年は、猫を30頭以上収容している時期があり、6月から10月にかけて非常に多い状況でした。猫の収容が多くなる時期は、春頃で、春に子猫が生まれ、親猫がいなくなって取り残された子猫が衰弱しているケースが増えるため、負傷動物として収容する事例が多くなります。</p> <p>こうした子猫たちは、だいたい生後2か月を超えた時点で譲渡を行いますので、結果として、夏頃に譲渡されていくケースが多くなります。</p> <p>そのほか、交通事故や病気で行き倒れている猫を負傷動物として収容する</p>

	<p>こともあります。こうした猫たちはなかなか譲渡が進まないのが現状で、1年以上センターに收容されて、譲渡先が見つからないケースも増えており、課題となっています。</p> <p>資料の冊子の3枚目にある表のとおり、所有者からの引き取りについては、令和6年度は0件です。引き取りは原則として、本当にやむを得ない場合に限って対応しています。例えば、飼い主さんが独り暮らしで身寄りもなく亡くなった場合などが該当します。</p> <p>また、当センターでは、ハンデのある猫たちの譲渡会を今年度から新しい取り組みとして始めました。ハンデが軽い場合は受け入れてくださる方も多いのですが、たとえば「てんかんがある」「骨盤骨折で排泄がうまくできない」など、重いハンデがある場合は、譲渡が難しくなります。</p> <p>そこで、どなたでも参加できる形で譲渡会を開催しています。昨年12月に第1回を開催し、17組・26名の参加がありました。第2回は今年の3月14日に予定しておりまして、また多くの方に来ていただければと考えています。</p>
清水委員	今後ともハンデのある猫たちの譲渡会は定期的に続けていくのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	<p>続けていきたいと考えています。</p> <p>親猫がいなくなり、衰弱した状態で收容された子猫たちは、元気に育って生後2か月を過ぎる頃には状態も安定し、譲渡されることが多いです。</p> <p>しかし、成猫の場合は交通事故でボロボロの状態に入ってくると、ハンデが大きく残ってしまうため、譲渡が難しくなる状況があります。</p> <p>そういった子たちを自由に見てもらい、譲渡を促進するために、この取り組みを始めました。</p>
清水委員	治療の痛みもなく亡くなってしまうことも、あるのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	子猫の場合、弱っていてミルクをうまく飲めずに亡くなる子もいますし、交通事故による重い怪我が原因で亡くなる子もいます。令和6年度は25匹の猫が收容後に亡くなっています。
西村会長	授乳が必要な子猫はどのように対応していますか。
動物愛護ふれあいセンター	<p>当センターの職員が自宅へ連れて帰り、夜中も授乳をしています。</p> <p>乳飲み子でも比較的元気な子猫は団体さんに譲渡をしています。弱っている子猫、場合によっては点滴が必要な子猫などはセンターの獣医師が管理をしています。</p>
西村会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほかご質問やご意見はよろしいでしょうか。(各委員：質問等なし)</p> <p>それでは本日の議事は全て終了します。皆様、円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。</p>
＜散会＞	